

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	経済学	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

経済理論とは論理の構成のため、具体的な事柄を捨象し、限定した条件を設定した上での思考実験を行った結果です。そのため、経済理論は単純化された側面が強く、現実経済とは必ずズレが生じます。しかしながら、そのように導出された理論は、経済現象の分析に対する基本的な思考回路を提供し、問題の根本に浸透することを可能にします。これらを前提条件とし、本授業では、現代の経済活動の中心をなす市場の原理を理解するとともに、その問題点についても認識を深めます。加えて、マクロ経済面では、国民経済計算を軸に、一国経済がどのように構成されているのか、政府による経済政策がどのように作用するのか、についての理解を深めます。以上を通じて、日常的に発生する経済現象の本質を見極める能力を養い、同時に、企業および社会での活動に必要な経済学の基礎を習得することを目的とします。講義の内容としては、前期には経済学の目的と歴史、ミクロ経済学、後期にはマクロ経済学と経済政策を配置し、基礎的な経済理論の体系化を図ります。

・参考文献

- 井堀利宏 [2015]『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA
- 植田和男 [2017]『大学4年間の金融学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA
- 宇野弘蔵編著 [2019]『経済学 上・下巻』角川ソフィア文庫
- 坂井豊貴 [2017]『ミクロ経済学入門の入門』岩波書店

到達目標

- ・ミクロ的視点：ミクロ経済では、完全競争の条件のもとでの需要供給曲線のあり方を理解した上で、条件の変化とともに、独占、寡占の成立など、実体経済に存在する諸問題がどのように市場に作用しているかを理解することを目標とします。
- ・マクロ的視点：マクロ経済では、国民経済計算の概要を理解した上で、一国の経済成長に必要な諸条件を認識することにより、日本経済の現状を認識しうる基礎的な能力を養成することを目標とします。
- ・現状分析：経済にかかわる議論を行う際に使用されるキーワードについてその内容を一通り習得し、各種メディアを通じて与えられる情報を自ら理解できることを目的とします。

回	内 容	回	内 容
1	経済学の概要	18	マクロ経済学：GDPの概要と決定原理
2	経済学の歴史：スミスとマルクス経済学	19	マクロ経済学：三面等価の原則
3	経済学の歴史：ケインズ学派と制度学派	20	マクロ経済学：経済主体（家計・企業・政府）
4	経済学の歴史：新古典派と新古典派総合	21	マクロ経済学：政府の財政政策
5	ミクロ経済学とマクロ経済学	22	マクロ経済学：資源配分・経済安定化機能
6	ミクロ経済学：需要曲線と供給曲線と価格	23	マクロ経済学：所得再分配機能
7	ミクロ経済学：消費者の行動	24	マクロ経済学：税制と所得再分配効果
8	ミクロ経済学：企業の行動	25	マクロ経済学：現金給付・現物給付
9	ミクロ経済学：市場の機能	26	マクロ経済学：政府の金融政策
10	ミクロ経済学：価格メカニズム	27	マクロ経済学：中央銀行の役割
11	ミクロ経済学：無差別曲線	28	マクロ経済学：インフレ・デフレ
12	ミクロ経済学：独占と寡占（様々な市場）	29	マクロ経済学：物価水準
13	ミクロ経済学：外部性（他人からの損得）	30	マクロ経済学：労働市場
14	ミクロ経済学：経済財・自由財・公共財	31	マクロ経済学：経済成長と経済政策
15	ミクロ経済学：情報の非対称性	32	マクロ経済学：国際収支と為替レート
16	前期のまとめ（経済学の歴史・ミクロ経済学）	33	マクロ経済学：政府と市場の関係
17	期末試験（前期）	34	後期のまとめ（マクロ経済学）
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	日本経済	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

日本人であれ、外国人留学生であれ、卒業後日本で働いていく皆さんにとって、日本経済を正しく理解することは欠かせません。経済学や社会学においては、経路依存性 (path dependence) という言葉が頻繁に使われています。これは人々によってなされた過去の選択が、現在の私たちの選択にも影響を及ぼすことを意味します。したがって、現在日本で行われる多くの経済的な出来事は、過去と連続性を持っていることが想定できます。この前提より、現在の日本経済を正しく理解するためには、かつて日本経済が辿ってきた歩みを俯瞰することが如何に重要であるのか納得できると思います。その考えに基づき、本授業では、日本経済の歴史の概略を知ることにより、1990年代以降の日本経済の停滞の原因がどこにあるのかについて理解を深めていきます。そして、国民経済計算をはじめ、経済にかかわる各種の統計資料を読みこなせるようにします。これらの学習を通じて、日本における企業の活動や政府の政策に対して、自らの意見が発言できる力量を養います。

・参考文献

宮崎勇・本庄真・田谷禎三 [2021] 『日本経済図説 第五版』岩波新書
 釣雅雄 [2014] 『入門日本経済論』新世社
 野口悠紀雄 [2017] 『日本経済入門』講談社

到達目標

- ・因果関係を見極める能力の向上：日本経済における各種の統計資料を活用して、歴史的な事柄が次の時代にどのような影響を及ぼしたのかを探求し、歴史的経路や因果関係を浮き彫りにする能力を養います。
- ・日本経済への理解度：日本での就職に先立って、日本の経済がどのような経路を辿ってきており、どのようなメカニズムで動くのかについて、きちんと理解し、その理解した内容を現場で活かせることを目標とします。
- ・日本経済の相対化：日本経済を日本と外国の目線の両方から見極めることによって日本経済を相対化する練習を行い、卒業後、現場でより客観的な判断ができる能力を養います。

回	内 容	回	内 容
1	日本経済の軌跡：近代化と戦争	18	日本経済と金融：貯蓄・直接金融・間接金融
2	日本経済の軌跡：復興と高度成長	19	日本経済と金融：証券市場・為替市場
3	日本経済の軌跡：バブルとデフレ	20	日本経済と金融：金融政策の目標と手段
4	日本経済と人口：人口動態と少子高齢化	21	日本経済と財政：財政の規模と構造
5	日本経済と環境：土地利用と自然災害	22	日本経済と財政：税制と国債
6	日本経済と国富：国富の構成	23	日本経済と財政：財政政策と財政再建
7	日本経済の構造：国民所得統計とGDP	24	日本経済と国際収支：輸出・輸入
8	日本経済と情報通信：情報化と雇用	25	日本経済と国際収支：サービス・所得収支
9	日本経済と情報化社会：産業構造への影響	26	日本経済と国民生活：経済力と生活の質
10	日本経済と情報化社会：社会的影響と課題	27	日本経済と国民生活：社会保障
11	日本経済と労働：就業構造の変化	28	日本経済と国民生活：年金問題
12	日本経済と労働：技術革新と労働生産性	29	日本経済の停滞：「企業」行動・投資の変貌
13	日本経済と労働：利益剰余金と労働分配率	30	日本経済の停滞：「国民」需要不足と購買力
14	日本経済と労働：賃金と経済成長の関係	31	日本経済の停滞：「政府」金融財政政策の再考
15	日本経済と雇用：失業率・外国人労働者	32	日本経済の展望：コロナ・ショック
16	前期のまとめ（日本経済の変遷）	33	日本経済の展望：アジア・世界の中の日本
17	期末試験（前期）	34	後期のまとめ（日本経済の特徴）
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	日本の社会	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

当授業では、「持続可能な開発目標（SDGs）」に沿って日本の社会を考えていきます。SDGsとは、国際社会が2015年に定めた国際目標であり、17の目標と169の指標（ターゲット）で構成されています。各国それぞれが定めた課題や指標を2030年までに達成することで、より安定した暮らしやすい社会の実現を、わたしたちの世界は目指しています。国が違えば環境が異なり、社会の成り立ちやその背景、それに伴う問題点も様々です。SDGs17の目標にそって日本の今を理解することは、日本の社会のみならず、世界目標の中での日本の立ち位置、そして、他国（海外からの皆さんの出身国も含めて）との関連が見えてきます。それは、日本でのビジネスシーンで活かされることは勿論ですが、これから更に事業を進展させて、海外または自らのお国でビジネスを展開していく際にも必要とされる、国際感覚を養うことでもあります。社会は変化し続けています。日本の社会の現状を、共に考えていきましょう。

到達目標

情報が溢れ、誰もがその情報に気軽にアクセスできる現代社会だからこそ、知り得た情報を鵜呑みにするのではなく、自らの頭で考えることが求められています。当授業の到達目標は、授業で得た日本社会の現状やその情報を、社会に対する自らの理解と対比させながら考えて、アウトプットすることです。そのために、それぞれの考えを発信し意見交換するためのグループワークを適宜実施します。より深く社会を考え理解することを目指して、皆さんの考える姿勢や考える力を評価します。

回	講義計画	回	講義計画
1	SDGsの17の目標と日本の社会について	18	「目標9：産業と技術革新」日本の産業の変遷と現状
2	「目標1：貧困」日本の貧困問題とその対策	19	
3		20	「目標10：人や国の不平等」日本の難民問題、移民対策
4	「目標2：飢餓」日本の食糧事情とフードバンク	21	
5		22	「目標11：まちづくり」日本の環境と住みやすい街づくり
6	「目標3：健康と福祉」日本の医療と福祉	23	
7		24	「目標12：つくる責任つかう責任」日本の産業廃棄物、地域文化振興
8	「目標4：教育」日本の学校教育と就学率の変遷、教育問題	25	
9		26	「目標13：気候変動対策」日本の取り組み、日本の技術支援
10	「目標5：ジェンダー」日本のジェンダーギャップの現状、LGBTQへの対応	27	
11		28	「目標14：海の豊かさ」日本の海と産業、日本の水産資源
12	「目標6：安全な水とトイレ」日本の水事情	29	
13		「目標7：エネルギー」日本のエネルギー資源とエネルギー対策	30
14	31		
15	「目標8：働きがいと経済成長」日本の労働環境、都市と地方	32	「目標16：平和と公正」日本の司法
16		33	「目標17：パートナーシップ」日本の役割、日本と世界
17	前期試験	34	
		35	後期試験

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	日本の生活	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
<p>これからの日本や世界をつくる学生のみなさんには、答えのない問題に立ち向かい解決する知恵と勇気と実力を身につけてほしいと思います。いい学校を出て、いい会社に入れば、一生幸せ、といった人生の考え方は、すっかり色あせて過去の話になりました。自分の人生は自分で切り開く。そのための勉強です。この科目では、日本での生活を豊かに築くために必要なことは何かを考えていきます。</p>			
到達目標			
<p>①日本の生活の中で直面する出来事や状況に的確に対応できるように、日本の災害、地理、各地方の特色、行政サービス、社会保障などを知り、日本で自立した生活を営む知恵と力を身につける。</p> <p>②共に生きる誰もが幸せになれる世界をつくるために、今、日本でどのように生活すればいいかを考えて行動できるようになる。学ぶべきこと、取るべき資格、目指すべき職業などが、モチベーション高くイメージできるようになる。</p>			
回	内 容	回	内 容
1	オリエンテーション	18	世帯・家族①少子高齢・縮小する世帯・家族
2	災害・事故に備えよう①地震・津波	19	②所得・資産・家計
3	②台風・豪雨	20	③労働時間・生活時間
4	③猛暑・酷暑	21	④家制度・冠婚葬祭
5	④花粉・ウイルス	22	⑤子育て
6	⑤事件・事故	23	医療・社会保障①医療
7	47都道府県どんなところ①北海道・東北	24	②年金
8	②関東・甲信越	25	③介護
9	③中部・東海	26	④雇用
10	④近畿・北陸	27	⑤労働災害
11	⑤中国・四国	28	⑥生活保護
12	⑥九州・沖縄	29	⑦社会福祉
13	社会とつながる①役所・自治会	30	想定外の未来のために①見えない4つの学力
14	②図書館・公共施設	31	②リベラルアーツの重要性
15	③行事	32	③共生社会
16	④地域・社会のルール・マナー	33	④国際人
17	期末試験（前期）	34	⑤誰もが幸せに暮らす「平和の文化」を
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	経営学	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
「経営は創造と説得としくみ」			
優れた組織や企業はしっかりした「しくみ（ビジネスモデル）」と「創造力」で創りあげられている。世界の優れた企業や組織の「しくみ」を理解することで、「ビジョン」や「理念」のありかたを学ぶ。			
到達目標			
1. 団体や企業を通じて、掲げたビジョンを実現するためには「 ビジネスモデル 」がいることを理解 2. 自分のビジョンを単なる願い事や「夢」に終わらせないためには「 戦略（道すじ） 」がいることを理解 3. 地球目線で、世界目線で、変化の兆しと芽を見つけだそうとする 起業家意識			
回	内 容	回	内 容
1	経営は「創造」と「説得」	18	① 企業業成長の歴史：ビジョンと戦略
2	優れた経営に共通するもの：知識創造力	19	② ホンダのDNA（企業遺伝子）
3	「創造力」の源、「説得力」の源は「真理」	20	③ 挑戦による目標の更新
4	1. ウォルマートの強さの秘密：特徴・特長	21	5. スリーMの強さの秘密：特徴・特長
5	① 企業成長の歴史：ビジョンと戦略	22	② 成長の歴史；ビジョンと戦略
6	② お客さまから見た強さの秘密	23	④ 商品開発と財務戦略
7	③ ヒトの集団としての強さの秘密	24	⑤ 従業員の「暗黙知」による「知識創造」
8	2. Amazonの強さの秘密：特徴・特長	25	6. フォードの強さの秘密：特徴・特長
9	① 企業成長の歴史：ビジョンと戦略	26	② 成長の歴史：ビジョンと戦略
10	② 顧客戦略：選択と集中	27	⑥ 自動車産業発展の原動力
11	③ 強みをさらに伸ばす戦略	28	⑦ 盛衰の歴史から学ぶ
12	3. トヨタの強さの秘密：特徴・特長	29	7. 日本電産強さの秘密：特徴・特長
13	① 企業成長の歴史：ビジョンと戦略	30	② 企業成長の歴史；ビジョンと戦略
14	② 企業文化が強さの秘密	31	⑧ スピード経営：Fast Eat Slow
15	③ トヨタ生産システム（TPS）の分析	32	8. 台湾企業の成長戦略：特徴・特長
16	4. ホンダの強さの秘密：特徴・特長	33	① 受注商売の高度化と差別化戦略
17	期末試験（前期）	34	⑨ 危機感とハングリーさ
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	企業戦略・事業計画	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

1. 「**長期的視点**」：10年後を想定した思考と行動で可能性を拓く人材を育てる
2. 「**根元的視点**」：ものごとの「真理」と人間の「本質」をつかみ、ビジョンを実現する人材を育てる
3. 「**多面的視点**」：人びとの多様な知恵から学び、自分を創りあげる人材を育てる

到達目標

1. 「**ビジョナリー**」を志す：ビジョンと勇気をもって不確実に立ち向かい、自国と世界の未来を拓く
2. 「**ガイアの目線**」をもつ：人種・宗教・国の枠を超えて、人類と地球を考える
3. 「**YBCの多様性**」に学ぶ：人の繋がり（ネットワーク）を活用し、知恵を創造する

歴史上、世界の混乱期の中で、多くの「**ビジョナリー**」が新しい世界と時代を創り上げました。

いま、ITの急速な進化と移動手段の高速化により「時空」は確実に狭くなり、過去の常識や固定観念が全く通用しない時代を迎えています。このビジネスカレッジの仲間が培うネットワークは、生徒の皆さまが抱いたビジョンを実現するための大きな力となります。イノベーションの本来の意味は「新しい繋がり」です。人と人の新しい結びつきが大きな変革（Innovation）を生み出し、国とアジアと世界を変えるものと信じています。

回	内 容	回	内 容
1	講義の全体像、皆さんの国の可能性、学生生活	18	3. 「信用」という見えない力
2	「志（ビジョン）」は人生の目的・生きた証	19	信用の蓄積がビジョンへの近道
3	アジアの歴史：隷属・独立・発展・未来	20	「顧客の創造」とは「信用の創造」
4	世界を変えた「 ビジョナリー 」に学ぶ 1	21	4. 「なかま（人）」という見えない力
5	世界を変えた「 ビジョナリー 」に学ぶ 2	22	ビジョンがなかまを惹きつける
6	世界を変えた「 ビジョナリー 」に学ぶ 3	23	YBCは多様性に満ちたなかまの場
7	「志（ビジョン）」を実現する体系	24	5. 「しくみ」という見えない力
8	変革（Innovation）とは「新しい繋がり」	25	社会は「しくみ」で動いている
9	多様性が生み出す知識の創造	26	ゲームチェンジは「しくみ」を変えること
10	潜在能力「8つの見えない力」を引きだそう	27	6. 「情報」という見えない力
11	「科学的思考法・ロジカルシンキング」	28	情報の原則：現場性・同時性・客観性
12	1. 「真理を見ぬく」という見えない力	29	生きた現場情報が正しい判断を生む
13	「ヒト・旅・知識」が人生を変える	30	7. 「情熱」という見えない力
14	「仮説」「実践」「検証」「真理」「応用」	31	すべては情熱と勇気から始まる
15	2. 「時間（スピード）」という見えない力	32	8. 「勇気」という見えない力
16	IT・物流が「時空」を狭くした	33	失敗は成功のスタートライン
17	期末試験（前期）	34	Vision33、10年間の「目標」と「行動計画」
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	日本の企業・海外の企業 キャリアデザイン	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
<p>自分のもっとも得意なことをできるだけ早く見つけてそれに向かって邁進すること。質問することは知らないことではなく知っていること、興味の表れである。文化の違いを無意識から意識の上にあげることによって他の文化に対する興味、敬意を持つことができる。相互理解を深め異文化にある中で活躍できる人材を目指す。</p>			
到達目標			
<p>人がどう評価するかではなく自分自身が真心から納得できること（仕事）で社会に貢献する人物になる。そうなる結果として、人からも評価されるようになる。学生は潜在的に素晴らしいものを持っている。その才能、強みを如何に顕在化するかを探求する。</p>			
回	内 容	回	内 容
1	キャリアデザインを学ぶ意義	18	企業のミッション・ビジョン
2	はたらくとは何かーキャリアの定義	19	コンピテンシーについて
3	Internal Motivation vs External Motivation	20	Job Description
4	日本における企業の起こり・歴史	21	高校までのキャリア
5	日本の企業 1	22	山手ビジネスカレッジのキャリア
6	日本の企業 2	23	入社後のキャリアの危機
7	日本の企業 3	24	30歳をにらむ時期のキャリアデザイン
8	日本の企業 4	25	基礎力を身につける-すべてに仕事に共通する力
9	海外の企業 -アメリカ	26	基礎力を身につける-対人能力
10	海外の企業 -ヨーロッパ	27	基礎力を身につける-対自己能力
11	海外の企業 -アジア 中国	28	基礎力を身につける-対課題能力
12	労働基準法・就業規則 その1	29	基礎力を身につける-処理力・思考力, 仕事に向かう態度
13	労働基準法・就業規則 その2	30	ひとはなぜ会社を辞めるか
14	コンプライアンスとガバナンス	31	履歴書と職務入れ期初
15	社風	32	面接 1
16	まとめ 1	33	面接 2
17	【前期試験】	34	まとめ 2
		35	【後期試験】

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	ビジネスマナー	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

国が違えば、習慣やマナーも違います。日本企業に就職する際に必要とされるマナーは就職活動の場でのマナーに通じます。そして、自分の意見や考えを相手にしっかり伝えられるようになるためには知識に加えて経験も必要不可欠です。授業では知識を身につけるだけでなく経験の場を与え、ビジネスマナーを習得していきます。後期の授業については就職した際に必要とされる知識を中心に講義を進めます。実社会に出た上で対応できる知識とスキルを習得していきます。

到達目標

日本企業、そしてグローバル企業に就職できる人材を育成していきます。初回授業での自己紹介から1年を通じて、学年末には自分の考えや思いを十分に伝えられ学生が自身の成長を実感できるようになることです。

回	内 容	回	内 容
1	授業の進め方と自己紹介	18	テレワーク
2	自己表現（作文）	19	インターンシップについて
3	日本人と働く心構え	20	エントリーとインターンシップ参加
4	時間厳守	21	訪問のマナー
5	身だしなみ	22	配慮のある話し方
6	あいさつ・お辞儀	23	上司・先輩との付き合い方
7	自己分析 1	24	ウチとソトの関係・チームワーク
8	自己分析 2	25	話を聞く時・指示を受ける時
9	企業研究の方法 1	26	報告・連絡・相談
10	企業研究の方法 2	27	情報管理・ハラスメント
11	履歴書作成 1	28	場所ごとの席次
12	履歴書作成 2	29	案内と見送り
13	敬語のつかい方	30	面接 1
14	電話の受け方・かけ方	31	面接 2
15	ハガキと封筒の使い方・書き方	32	自己PR作成
16	ビジネスメールの書き方	33	自己紹介 プレゼンテーション
17	期末試験（前期）	34	後期試験の為の理解度チェック
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	産業各論 I	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1 学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2 単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

広義の産業とは、人間が生きていく中で必要なモノやサービスを生産する活動全般を意味します。従って、人間が生きていく上で欠かせない活動であります。狭義の産業とは、生活していく上での具体的な仕事を指します。現代では産業や仕事が詳細に分割されているものの、それぞれは互いに繋がっており、人間の生活を支える基盤であることに変わりはありません。故に、産業が持つ意味は単にどこで働いていくのかに限定されるものではありません。産業を理解するということは、私たちが日々生産していくモノやサービスが私たちの日常を如何に成立し、支えているのかを理解する出発点になります。この授業では、このような問題意識に基づき、単に産業界に存在する多様な仕事の紹介に限るのではなく、それぞれの仕事を持つ社会的な意味を浮き彫りにしながら、産業や仕事そのものに対して真剣に学んでいきたいと考えています。

・参考文献

イノウ [2021] 『ひとめでわかる産業図鑑&業界地図 改訂新版』 技術評論社
尾崎巖 [2004] 『日本の産業構造』 慶應義塾大学出版会
小田切宏之 [2019] 『産業組織論』 有斐閣
小林秀二 [2016] 『ビジネス・エコノミクス』 NextPublishing Authors Press

到達目標

- ・ 責任感を持った社会の構成員：スキルを持ち、現場力を活かしたビジネスパーソンでありながら、同時に自らの仕事や働いていく産業が社会にとって如何なる意味を持つのかについて真剣に理解し、責任感を持った社会の構成員になることを目標とします。
- ・ 多芸多才な人材：世界に存在する様々な産業について学んでいながら、それぞれの産業や仕事を持つ意味や特殊性についてきちんと理解し、就職と転職において柔軟に対応できる多芸多才な人材になることを目標とします。

回	内 容	回	内 容
1	産業①分類・定義・学説	18	第一次産業：農業①農業の発展と停滞
2	産業②連関表	19	第一次産業：農業②地産地消・アグリビジネス・スマート農業
3	産業「Industry」に関わるプレーヤー	20	第一次産業：林業
4	産業構造の発展①第一次産業革命	21	第一次産業：漁業・水産業
5	産業構造の発展②第二次産業革命	22	第三次産業①サービス産業
6	産業構造の発展③第三次産業革命	23	第三次産業②情報通信業
7	産業構造の発展④第四次産業革命	24	第三次産業③運輸業・宿泊業
8	第二次産業①製造業の概要	25	第三次産業④旅行業
9	現代日本の産業構造①全体像と変化	26	第三次産業⑤不動産業
10	現代日本の産業構造②主要産業と企業	27	第三次産業⑥卸売・小売業
11	現代日本の産業構造③サプライチェーン	28	第三次産業⑦銀行・証券
12	現代日本の産業構造④地域産業	29	第三次産業⑧保険業
13	産業構造の変化①イノベーション	30	第三次産業⑨医療・福祉
14	産業構造の変化②今後の動向・Society 5.0	31	第三次産業⑩教育・学習支援業
15	第二次産業②製造業の課題	32	第三次産業⑪プライダル・セレモニー・アミューズメント
16	前期のまとめ	33	第三次産業⑫シェアリング・その他サービス
17	期末試験（前期）	34	後期のまとめ
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	商法・会社法	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
<p>法律の学習を通して、論理的な思考や多面的な思考を養う。原則を守り、公平な解決策を示す、よきリーダーであり、よきトラブルシューターとなることを目指す。</p> <p>日本の企業の運営の基礎となる商法と会社法を学び、法律から見たビジネスの在り方を学習する。学習の範囲には、商法・会社法のほか、その一般法である民法や、その他ビジネスに関連する法律を含める。授業では小六法を使用し、裁判例を紹介するが、身近な問題に当てはめ、専門用語をできるだけわかりやすく解説する。</p>			
到達目標			
<p>1) 法の体系と法律用語の基礎的な知識を身につける。</p> <p>2) 裁判例などの実例を通して法的なものの考え方を理解する。</p> <p>3) 会社制度の法的な枠組みと運営上の現実の問題について知る。</p> <p>4) ビジネスでの法令遵守の必要性を認識し、規範意識を身につける。</p>			
回	内 容	回	内 容
1	ビジネスと法	18	会社法⑦役員等の義務と責任 2
2	法の一般原則	19	会社法⑧会社と取締役間との訴訟
3	法律用語・六法の見方	20	会社法⑨委員会型の会社
4	商法・会社法と民法	21	会社法⑩コーポレート・ガバナンス
5	民法①契約・債権債務	22	会社法⑪計算・配当
6	民法②法律行為・時効	23	会社法⑫資金調達・社債
7	民法③不法行為	24	会社法⑬組織再編・事業譲渡・持分会社
8	商法①商人と商行為	25	会社法⑭内部統制システム・金融商品取引法
9	商法②商号・商業使用人	26	法令違反リスク①金商法インサイダー取引
10	商法③商事契約	27	法令違反リスク②独占禁止法・下請法
11	会社法①会社の種類・定款・設立	28	法令違反リスク③著作権法・特許法
12	会社法②株式・株主・資本金	29	法令違反リスク④刑法・コンピュータ犯罪
13	会社法③株主総会・取締役	30	法令違反リスク⑤労働法
14	会社法④取締役会・監査役・会計監査人	31	法令違反リスク⑥税法・消費者法
15	会社法⑤代表取締役	32	法令違反リスク⑦製造物責任法・環境法
16	会社法⑥役員等の義務と責任 1	33	法令違反リスク⑧その他
17	期末試験（前期）	34	まとめ・コンプライアンス経営
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授業の方法	実技
授業科目名	IT実習 I	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1 学年	授 業 回 数	全 1 7 5 回
単 位 数	5 単位	授 業 時 間	1 コマ / 5 0 分
授業科目の目的・内容			
<p>ITに関する基礎的な用語の意味を理解し、知識と操作方法を習得することを目的とする。</p> <p>Windows OS を用いて MS Office の Excel、Word、PowerPoint を中心に学習し、ハードウェアの構造やネットワークの仕組みについても学習する。</p> <p>また、ビジネスで用いる書類データの取扱いかたや、データ整形について実践を通じて習得する。</p> <p>ネットワークを通じたデータの収集と集計、検索、共有と情報発信、IT 利用のリスクやセキュリティ対策について学習し、これらを通じて、現代社会で必要とされる情報リテラシーを習得する。</p>			
到達目標			
<p>1) MS Windows PC とネットワークの仕組み、用語を理解する</p> <p>2) MS Office Excel、Word、PowerPoint の機能理解と操作習得</p> <p>3) デジタルデータの取り扱い方を理解する</p> <p>4) IT 利用時のリスクとセキュリティを理解する</p>			
回	内 容	回	内 容
01～04 回	コンピューター操作の基礎	088～096 回	Excel 実習 1 見積書を作る
05～09 回	IT 日本語リテラシー	097～105 回	Excel 実習 2 売上記録を整理する
10～13 回	IT コミュニケーションの基礎	100～122 回	Excel 実習 3 名簿を作る
14～18 回	身の回りの IT を調査する	123～127 回	高度なデータ管理と検索
19～33 回	MS Office 基礎 Excel	128～132 回	アンケート概要と作成
34～41 回	MS Office 基礎 Word	133～137 回	アンケート実施と集計
42～48 回	MS Office 基礎 PowerPoint	138～142 回	アンケート集計結果発表
49～53 回	デジタルドキュメントと印刷	143～146 回	ドキュメントのオンライン共有
54～58 回	ファイル構造を理解する	147～151 回	用途別データの整形
59～63 回	OS の機能と役割	152～156 回	バイラルマーケティングと SNS
64～72 回	さまざまなファイル形式	157～161 回	オンラインサービスのマネタイズ
73～77 回	ハードウェアの構造理解と機種選定	162～174 回	IT 利用のリスクとセキュリティ対策
78～82 回	インターネットの仕組み	175 回	期末試験（後期）
83～86 回	Wi-Fi とモバイルネットワーク		
87 回	期末試験（前期）		

※期末試験は前期 1 回、後期 1 回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	現代世界経済	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

世界経済における体系や現状は同じようで実は違うのが特徴であり、それに対する理解には常に困難が伴います。その困難を克服するためには、世界における普遍的な経済体系としての市場経済を、原理的に解明した上で、各国における特殊な固有の発展経路や、周辺国との関係を分析する必要があります。従って、本授業においては、市場経済の普遍性と各国経済の特殊性という一見矛盾しているような理解に立脚した上で、世界経済に対する理論と応用を勉強します。具体的には、市場経済下でグローバル経済を動かす貿易や、資本移動等に関する基礎的な理論を理解した上で、日本との関連が深い主要国・地域の経済動向及び政策課題などについて検討します。

・参考文献

内閣府 [2002-2020] 「世界経済の潮流」

野口悠紀雄 [2018] 『世界経済入門』 講談社

宮崎勇・田谷禎三 [2020] 『世界経済図説 第四版』 岩波書店

到達目標

- ・「理論的基礎」の構築：世界経済の理論や世界経済を律する制度的条件、更に世界の主要国・地域の経済動向と政策課題についての理解を深めることを目標とします。
- ・「応用可能性」の増進：日々の国際経済に関するニュースを接する際に、その内容に対して明確に理解でき、それに対して議論できる能力の習得を目標とします。
- ・「実践的活用」の向上：日本・アメリカ・中国の経済関係など、世界経済に関する理解度や応用可能性を基に、卒業後日本を始め、世界を舞台に活躍する際に、実務において実践的な活用ができる知識の習得や思考力の向上を目標とします。

回	内 容	回	内 容
1	世界経済の概要	18	途上国の市場経済化：先進国と途上国の関係
2	世界経済：国の数・国土、人口・民族、GDP	19	デジタル・エコノミー：情報通信革命と物価
3	世界経済：産業構造、技術、天然資源	20	デジタル・エコノミー：プラットフォーム
4	世界経済：国民生活、国際化の軋轢	21	デジタル・エコノミー：米中の技術覇権摩擦
5	国際貿易：一般貿易。貿易収支と貿易構造	22	人口：世界人口の急増、少子高齢化
6	国際貿易：サービス収支、関税・非関税障壁	23	食料：世界の食料事情、食料消費の高度化
7	国際貿易：直接投資、WTO 体制	24	エネルギー・資源：省エネ、資源貿易問題
8	国際金融：資本の流れ、金融資本市場	25	地球環境保全：広域化する環境問題
9	国際金融：金利、株価、金融派生商品	26	地球環境保全：途上国の環境問題、気候変動
10	国際金融：為替制度、IMF 体制	27	地球環境保全：自然環境と生態系、SDGs と ESG
11	多極化：世界経済の再編成	28	経済危機：大恐慌、中南米諸国の危機
12	地域統合：EU、USMCA、TPP	29	経済危機：日本バブル経済、アジア通貨危機
13	貿易摩擦：貿易・経済摩擦、米中貿易摩擦	30	経済危機：南欧諸国の財政危機、中国の債務
14	指令経済：社会主義と資本主義、ソ連の解体	31	構造変化：市場のグローバルイゼーション
15	途上国の市場経済化：中国、インドの発展	32	構造変化：政治の一国体制
16	前期のまとめ（世界経済の動向）	33	構造変化：市場と政治における矛盾
17	期末試験（前期）	34	後期のまとめ（世界経済の課題）
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	経済政策	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

本授業は、基礎的な知識の習得のみならず、現実の経済政策の動向・期待効果・限界を論理的に理解・考察することに主眼を置き、まず経済政策の本質・必要性・評価について解説していきます。同時に、①マクロ経済政策（財政と金融）、②所得税制・法人税制、③社会政策（働き方改革の動向など）のそれぞれについて、実状・課題を具体的に分析していきます。とりわけ、コロナ対策や構造改革など日本で実際に講じられている経済政策について、経済理論との関係を含めて、実践的な検証を行います。

・参考文献

飯田泰之 [2014] 『図解 ゼロからわかる経済政策 「今の日本」「これからの日本」が読める本』 KADOKAWA
 経済産業省 [2009-2020] 「通商白書」
 代田純・小西宏美・深見泰孝 [2021] 『ファイナンス入門』 ミネルヴァ書房
 瀧澤弘和他編 [2016] 『経済政策論—日本と世界が直面する諸課題』 慶應義塾大学出版会
 鶴光太郎・前田佐恵子・村田啓子 [2019] 『日本経済のマクロ分析—低成長経済のパズルを解く』 日経BPM
 藤川清史他編 [2020] 『経済政策入門』 法律文化社

到達目標

- ・「理論」の理解：実際に講じられている経済政策が、経済学で学ぶ経済理論とどのように関係しているのかについて、理解できる力の習得を目標とします。
- ・「考察力」の向上：経済政策の課題を自ら発見し、その対応策を考察できる力や政策をめぐる議論を客観的に評価できる力の醸成を目標とします。
- ・「実務」への活用：税制や労働政策などの具体的な政策をはじめ、政府の経済政策の在り方と、企業活動への影響などに対する学習を基礎とし、卒業後、経済政策と実務との関連性が理解できることを目標とします。

回	内 容	回	内 容
1	経済指標と経済政策の目標	18	労働市場政策：長時間労働、働き方改革
2	人口政策：人口減少社会と少子化対策	19	労働市場政策：外国人労働者の受入動向
3	人口政策：高齢化と年金問題	20	労働市場政策：技能実習制度
4	社会保障政策：社会保険	21	財政政策：経済安定化政策
5	社会保障政策：公的扶助	22	財政政策：所得再分配政策
6	社会保障政策：ベーシックインカムの再考	23	財政政策：日本の税制の仕組み
7	地域政策：地方消滅と市町村の合併	24	経済成長政策：実質 GDP の推移
8	地域政策：二重行政と市町村の合併	25	経済成長政策：技術進歩の促進
9	地域政策：コンパクトシティ	26	金融政策：中央銀行の役割、金利政策
10	農業政策：食料自給率	27	金融政策：量的緩和
11	農業政策：産物貿易自由化	28	貿易政策：国際経済取引と国際収支
12	農業政策：日本農業のポテンシャル	29	貿易政策：手段と効果
13	労働市場政策：労働市場、最低賃金	30	貿易政策：貿易協定
14	労働市場政策：日本的雇用システム	31	貿易政策：国際通貨システムと為替レート
15	労働市場政策：労働市場改革の方向性	32	地球温暖化防止政策：気候変動
16	前期のまとめ（経済政策の必要性）	33	地球温暖化防止政策：SDGs
17	期末試験（前期）	34	後期のまとめ（経済政策の拡大）
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	金融論	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
日本の金融はどのような人々や企業によって担われ、それはどのように機能し、私たちの生活とどのようなかわりを持っているかを学ぶ。			
到達目標			
金利、証券市場、為替相場などの動向を基本的に理解し、企業の資金運用の仕組みなど企業人・社会人としての基本知識を身につける。			
回	内 容	回	内 容
1	金融論を学ぶ意義 1	18	資金の循環と金融市場-資本市場 2
2	貨幣と日本の決済システム-交換経済と貨幣	19	金利と資産の価格 — 金利とは
3	銀行制度と決済システム	20	金利と資産の価格 — 金利の決定 1
4	貨幣創造機関としての銀行	21	金利と資産の価格 — 金利の決定 2
5	資金の貸借と金融 — 貨幣の機能と金融	22	金利と資産の価格 — 資産価格と金利
6	資金の貸借と金融 — 資金の調達と運用	23	デリバティブとリスクの移転-金利スワップ
7	金融機関と金融仲介 — 日本の金融機関	24	デリバティブとリスクの移転-先物取引
8	金融機関と金融仲介 — 公的金融仲介機構	25	デリバティブとリスクの移転-オプション
9	金融機関と金融仲介 — 金融仲介機関の機能 1	26	金融ビッグバンと金融システムの安定化 — 金融規制とその問題点
10	金融機関と金融仲介 — 金融仲介機関の機能 2	27	金融ビッグバンと金融システムの安定化 — 金融ビッグバンとは何か
11	金融機関と金融仲介 — 金融仲介機関と企業統治	28	金融ビッグバンと金融システムの安定化 — 金融システムの安定化
12	資金の循環と金融市場-資金の循環と金融機関	29	金融と景気と物価-国内総生産の決定と変動
13	資金の循環と金融市場-狭義の市場取引と相対取引	30	金融と景気と物価-景気変動と金融
14	資金の循環と金融市場-短期金融市場	31	金融政策とマクロ経済-金融政策の目的と手段
15	資金の循環と金融市場-資本市場 1	32	金融政策と金利と為替レート
16	まとめ 1	33	金融政策とマネーサプライ
17	期末試験（前期）	34	まとめ 2
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	企業組織	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
<p>企業組織論の概念を通して個人と集団、組織の関係を考察し、外部環境に合わせ組織が変革を求められることを理解し、企業組織の中で自分自身の果たす役割を考え、就業後に自ら実践していく力を養成する。</p> <p>企業活動の基本である従業員管理を含め、企業の組織がどのように作られているかを具体的な事例に即して学習する。組織の基礎理論は、マクロ組織論（組織構造論）とミクロ組織論（組織行動論）を取り上げる。</p>			
到達目標			
<p>1) 企業組織とマネジメントについて基礎的な知識を身につける。</p> <p>2) 組織における個人と集団の行動の意味を理解する。</p> <p>3) 企業が直面する現実の問題を理解する。</p> <p>4) 自分自身のマネジメントスタイルを考え、発表する。</p>			
回	内 容	回	内 容
1	はじめに (組織とは)	18	意思決定 (個人と集団)
2	個人の欲求 (働き方)	19	集団の失敗 (集団圧力・集団浅慮)
3	付加価値 (企業の目的)	20	コンフリクト (発生タイプ)
4	分業 (経営資源)	21	組織コミットメント (定着率)
5	キャリア (企業と個人の関係)	22	従業員代表制 (経営参加)
6	社会化 (組織人)	23	ダイバシティ (同質性と異質性)
7	組織文化 (組織の価値観)	24	組織デザイン (ラインとスタッフ・標準化)
8	官僚制 (組織ルール)	25	ヒエラルキー (機能別・事業部制・マトリクス)
9	モチベーション (仕事意欲)	26	組織学習 (学習サイクル)
10	従業員管理 (適材適所)	27	外部環境 (利害者集団とガバナンス)
11	人事評価 (目標管理)	28	組織変革 (組織のライフサイクル)
12	キャリア開発 (人事異動・研修)	29	ビジネスシステム (価値創造)
13	人間関係 (職場集団)	30	集中化と外部化 (事業再編)
14	リーダーシップ① (役割)	31	持株会社と子会社 (組織再編)
15	リーダーシップ② (権限委譲)	32	非営利組織 (ネットワーク組織)
16	リーダーシップ③ (状況適合)	33	ビジョン (経営理念と組織開発)
17	期末試験 (前期)	34	まとめ (企業の社会的責任)
		35	期末試験 (後期)

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	財務戦略・財務管理	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
企業の収益をどのように確保するかは企業にとっての最終目標であり、これを資金のながれからどのように戦略し、管理するかを学ぶ			
到達目標			
資金・資産の運用の基本、資産の構成、財務と経理の違いなどを理解し、企業で活かせる即戦力を培う。			
回	内 容	回	内 容
1	財務戦略・財務管理を学ぶ意義	18	経常利益の概念 対 EBITDA
2	会計と財務の違い 1	19	加重平均資本コスト WACC
3	会計と財務の違い 2	20	税引き後営業利益
4	財務会計と管理会計	21	無利子負債
5	資金調達の方法	22	EVA スプレッド
6	売掛金と買掛金	23	投資家の信頼
7	固定資産・損益計算書・キャッシュフロー計算書	24	現在価値の計算
8	三つの意思決定にかかわること	25	リスク認識と割引率
9	期待収益率	26	会社の値段
10	負債コスト、株主資本コスト	27	企業価値の計算
11	負債コスト、株主資本コスト、経常利益の概念	28	投資の判断基準
12	ハイリスクハイリターン	29	IRR 法
13	CAPM 理論	30	お金の借り方返し方 リバレッジ
14	負債コスト	31	お金の借り方返し方 最適な資本構成
15	株主資本コスト	32	お金の借り方返し方 格付けと WACC の関係
16	まとめ 1	33	自社株取得、企業のライフサイクルと分配
17	期末試験（前期）	34	まとめ 2
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	生産管理・販売管理	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

「ビジョンは人生のミッション（自分に課す使命）」

「企業戦略・事業計画」では「WHY?」「WHAT?」を追求することによって自らのビジョンを掲げ、さらに実現への10年間の「ビジョン32」として、具体的な「目標」と「行動計画」を立案しました。

しかし、それはビジョナリーとしては「絵に描いた餅」です。さらに、「ビジョン32」実現のための「HOW?」を学ぶ必要があります。良き経営の事例をもとに、模倣し改善し、自らのものとするための講義です。

到達目標

1. 世界の優れた経営に学び、これからの実践に役立てる
2. ビジョン実現の過程の道しるべとなる、支えとなる知識を修得する
3. 毎日の習慣の中で「潜在能力=8つの見えない力」を意識して養う
- 4.

回	内 容	回	内 容
1	1年間の授業のふり返り、講義の全体像	18	④ ムダの原因（真因）をつかみ、なくす
2	「志（ビジョン）」のもち方と使い方	19	3. 資金戦略と財務機能
3	「理念」の内容確認：ぶれない枠組み	20	① ムダな資産がムダな動きを生む
4	「戦略」の内容確認：人生計画の道すじ	21	② ムダのない在庫・設備・人員
5	会社・組織設立に向けて必要とすること	22	③ ローコスト経営（節約）が競争力の基盤
6	見えない力が組織・会社の優劣を決める	23	④ 無借金経営：自己資本100%の経営基盤
7	1. 販売戦略とマーケティング	24	4. 経営戦略とマネジメント
8	① お客さまはモノでなく「価値」を買う	25	① 人づくり、組織作り、リーダーづくり
9	② IT技術によるCRM戦略	26	② 資産は少ない方が良い
10	③ 「市場シェア」から「顧客シェア」へ	27	③ 「リングルマンの法則」
11	④ お客さまとマーケティング	28	④ 効果・効率を妨げる「ピーターの法則」
12	⑤ 商売の分類：「見込み商売」「受注商売」	29	⑤ 敵は専門分化：縄張り意識と官僚主義
13	2. 製造戦略と調達戦略	30	5. ビジョン=事業・組織の定義
14	① 価値=品質÷価格、品質をブランドに	31	6. 優れたリーダーと企業文化に学ぶ 1
15	② 時間の浪費を生み出す「真因」は何か	32	7. 優れたリーダーと企業文化に学ぶ 2
16	③ トヨタ・プロダクション・システム	33	ビジョン実現のための設計図
17	期末試験（前期）	34	「知識創造企業」をめざそう
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	ビジネス文書	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
<p>ビジネスパーソンにとって、読み易く理解し易い適切なビジネス文書を作成できることは、ビジネスの成功要因の1つです。その力を身に付けるために、この「ビジネス文書」を学びます。内容としては、日本での基本的なビジネス会話やビジネス用語・表現を学びながら、各種ビジネス文書を学びます。実際の就職活動に必要な文書（履歴書やビジネスメール）の作成演習も実施します。更には、日本で就職後に必要となる、実践的社内&社外文書（ビジネスメールを含む）の内容や構成を学び、その作成演習も豊富に経験します。</p>			
到達目標			
<p>1年間の「ビジネス文書」授業のゴールは、「生徒がPCを使って日本語のビジネスメールを作成できる」ことです。この授業を通じて、日本&国際的ビジネス環境や情報を理解し、日本語独特のビジネス汎用用語や表現が理解できるようになります。実際に、PCを使って、自分の思いや考えを適切にメールに反映する能力を養います。そして、最終的に、適切な日本語でのビジネス文書（ビジネスメール）が作れる事を目指します。中長期的には、この授業を通じて、言語、人種、ビジネス種類などが異なっても、共通しているビジネス文書の考え方が身についている事を期待します。更に、この授業で、複眼的思考や国際的教養も身につけ、将来、生徒達が日本以外の国で働くようになって、引き続き社会貢献できるようになる事を期待します。</p>			
回	内 容	回	内 容
1	ビジネスと文書	18	ビジネス文書の5つの成功要因
2	ビジネスメールの基礎練習	19	メール①（目的、種類、Audience analysis）
3	夢と目標を書く（業種・職種）	20	メール②（スタイルガイド、Readability）
4	目指す仕事と自己分析	21	メール③（ビジネスメール汎用用語と件名）
5	就職活動のビジネス文書（履歴書、ES、メール）	22	メール④（ビジネスメール汎用表現と件名）
6	履歴書①自分の履歴と自己PR	23	メール⑤（社内ビジネスメール）
7	履歴書②やりたい仕事と志望動機	24	社内文書と社外文書
8	履歴書③履歴書の構成と情報整理	25	ビジネスメールの応用練習
9	履歴書④自己PR作成	26	実践①（社外ビジネスメールの特徴と作り方）
10	履歴書⑤志望動機&志望理由作成	27	実践②（就活ビジネスメール履歴書送付）
11	就職活動⑥まとめ	28	実践③（就活ビジネスメール面接&お礼）
12	文書の構成要素①（標準的日本語表記）	29	実践④（NGメール、OKメール）
13	文書の構成要素②（クッション言葉と敬語）	30	実践⑤（社内の報告&案内メール作成）
14	ビジネス用語とビジネス文書汎用用語	31	実践⑥（社外の案内メール作成）
15	ビジネス用語とビジネス文書汎用表現	32	実践⑦（社外の依頼&報告メール作成）
16	ビジネス文書のまとめと前期試験練習問題	33	実践⑧（社外の案内&報告メール作成）
17	期末試験（前期）	34	ビジネス文書のまとめと後期試験練習問題
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	産業各論Ⅱ	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

AI や IoT、ビックデータなどの一般化により、産業界において地殻変動が発生している中、どのような産業でどういった仕事を選択するのかに関しては、学生のみならず多くの人々が抱えている不安や疑問です。技術進歩に連れて減少・消滅していく職種が増え続ける中では、「どこで」働いていくのかではなく、「どのように」働いていくのが大切です。これを視野に入れて本授業では、まず「産業各論Ⅰ」の続きとして第二次産業を中心に勉強しながら、様々な分野に広がっていた産業の全体像を図ることを目標とします。加えて、様々な産業をきちんと理解したうえで、ワーク・ルールを整然と身に付けることまで念頭に入れます。これらを通じて、如何なる産業に対しても自分の知識やスキルを「どのように」活かせるのかについて明確に知覚しているビジネスパーソンになることを目標とします。

・参考文献

- 十名直喜 [2017] 『現代産業論 ものづくりを活かす企業・社会・地域』 水曜社
 - 津崎克彦編著 [2018] 『産業構造の変化と外国人労働者——労働現場の実態と歴史的視点』 明石書店
 - 深尾京司 [2009] 『マクロ経済と産業構造 (バブル デフレ期の日本経済と経済政策)』 慶應義塾大学出版会
 - 宮里邦雄・川人博・井上幸夫 [2011] 『就活前に読む 会社の現実とワークルール』 旬報社
- ※いずれかの回に、職業人を招いて講話を伺う場合がある。
 ※工場見学は、社会情勢と受入先企業の都合等によって、回が前後または実施できない場合がある。

到達目標

・産業を選ばず、自分を貫いていく人材：卒業後日本で就職するか、それとも母国で就職するか、そしてどのような産業で働いていくのかなど、皆さんのこれからの仕事には様々な不確実性が満ちていると思います。同時に、就職後も産業構造の変化による他産業への転職まで想定すると、人生における仕事とは不確実性の連続です。その中では、自ら特定の産業を限定してそこで働き続けるよりは、どのような産業においても働いていける柔軟な思考を持ちながら、自らの知識やスキルを活かす変換力が大事です。本授業では、産業そのものに対する理解を基礎としながらも、自分を貫いていきながらどこでも働いていける人材になることを目標とします。

回	内 容	回	内 容
1	産業各論Ⅰ復習、Ⅱの進め方	18	工場立地とサプライチェーン
2	ワーク・ルール①	19	CLMVT と日本
3	ワーク・ルール②	20	第二次産業：生活用品
4	ワーク・ルール③	21	第二次産業：建設・住宅
5	ワーク・ルール④	22	第二次産業：自動車・自動車部品
6	労働安全衛生管理とメンタルヘルスケア	23	第二次産業：運送用機器
7	製造業を取り巻く環境の変化	24	第二次産業：設備・インテリア
8	第二次産業：食品・水産	25	第二次産業：家具・木工
9	第二次産業：機械	26	ビジネスと人権
10	第二次産業：プラント	27	ものづくり支援
11	第二次産業：化学製品	28	製造業が抱える課題①
12	第二次産業：家電・携帯電話	29	製造業が抱える課題②
13	第二次産業：電気機器・電子部品	30	外国人労働者と産業構造の変化
14	第二次産業：製菓・化粧品	31	外国人労働者が働く現場
15	第二次産業：医療機器・介護用品	32	外国人労働者と日本の社会構造の変化
16	前期のまとめ	33	人の移動と産業をめぐる時空間の変容
17	期末試験（前期）	34	後期のまとめ
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	プレゼンテーション	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全45回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
<p>自分の考えや提案を発表するためにプレゼンテーションの手法を講義と実技で習得していきます。どのようなプレゼンテーションが効果的なのかを実践で学びます。レジュメの作成、パワーポイントでの資料作成、発表、聞き手となったときの評価の方法を学びます。前期は主に就職活動に役立つテーマを扱い、後期は社会的なについての発表および経済経営の教科での学習内容をアウトプットしていきます。また、毎回発表に対しフィードバックすることで、次のプレゼンテーションに活かせるよう授業を進めていきます。いろいろな側面から効果的なプレゼンテーションの技術を学び向上させていく授業内容になっています。</p>			
到達目標			
<p>いろいろな対象に対して、自分の考えや提案を十分に伝えることができ、社会人となったときに即戦力となる技術とコミュニケーション力を身につけていきましょう。</p>			
回	内 容	回	内 容
1	プレゼンテーションとは 自分の考えを相手に伝える手法について学ぶ	23	「環境について」 今ある問題を考える
2	良いプレゼンテーション・悪いプレゼンテーション 作り手からの視線ではなく受け手からの視線で良いプレゼンテーションについて考える	24	「環境について」 序論→本論→結論の構成 レジュメ作成とパワーポイントの資料作成
3	評価シート作成 豊かな表現を文字で表し、評価	25	「環境について」 学生発表① 発表とそれぞれの評価
4	パワーポイントの使い方① パワーポイントの機能を実際に体験	26	「環境について」 学生発表②
5	パワーポイントの使い方② パワーポイントの機能を生かした資料作り	27	「世界と日本の経済について」 母国の経済について調査
6	「自己紹介」 講師発表と評価 講師による発表から手法を学び、評価の仕方を学ぶ	28	「世界と日本の経済について」 母国と日本の経済の違いについて調査 レジュメ作成
7	「自己紹介」 レジュメ作成 自己紹介の基本項目を作文に	29	「世界と日本の経済について」 パワーポイントの資料作成
8	「自己紹介」 資料作成 レジュメを基にパワーポイントの資料作成	30	「世界と日本の経済について」 学生発表①
9	「自己紹介」 学生発表① 作成したパワーポイントの資料で発表し、発表について評価シートを作成	31	「世界と日本の経済について」 学生発表②
10	「自己紹介」 学生発表②	32	「自由テーマ」 レジュメ作成
11	「自己紹介」 学生発表③	33	「自由テーマ」 パワーポイントの資料作成
12	評価シートから学ぶ 評価シートから改善点を学ぶ	34	「自由テーマ」 学生発表①
13	HPから学ぶ企業 企業から発信する情報をキャッチして、企業を知る	35	「自由テーマ」 学生発表②
14	「企業研究」 レジュメ作成 ある企業について調査し自分の目線から見た企業について発表	36	「あなたの国で売りたい日本製品（日本のサービス）」 母国で売りたいものを考え、情報収集
15	「企業研究」 資料作成 パワーポイントの資料作成	37	「あなたの国で売りたい日本製品（日本のサービス）」 レジュメ作成
16	「企業研究」 学生発表① それぞれの発表と、その評価	38	「あなたの国で売りたい日本製品（日本のサービス）」 パワーポイントの資料作成
17	「企業研究」 学生発表②	39	「あなたの国で売りたい日本製品（日本のサービス）」 学生発表①
18	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に持てきたいもの」 資料作成 母国にある商品（サービス・制度）調査	40	「あなたの国で売りたい日本製品（日本のサービス）」 学生発表②
19	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に持てきたいもの」 レジュメとパワーポイント資料作成	41	「後輩へ」 日本での生活、学生生活から学んだ経験を生かし後輩にメッセージを送るーレジュメ作成
20	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に持てきたいもの」 学生発表①	42	「後輩へ」 パワーポイントの資料作成
21	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に持てきたいもの」 学生発表②	43	「後輩へ」 学生発表①
22	期末試験（前期）	44	「後輩へ」 学生発表②
		45	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2023年度	授業の方法	実技
授業科目名	IT情報Ⅱ	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2 学年	授 業 回 数	全175回
単 位 数	5 単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
<p>IT実習Ⅰで習得した基礎的な知識と操作方法を踏まえて、Office Word、Excel、PowerPointを中心としたビジネスに必要なデータ処理スキルと、Google アナリティクス、データサイエンスを中心としたデータ集計分析の基礎的なスキルを習得する。</p> <p>ITを用いてデータを集め、分析し、業務や生活に役立つ情報を得て、思考や企画できる能力の習得を目指す。</p>			
到達目標			
<p>1) Google アナリティクスの仕組み、用語を理解する</p> <p>2) MS Office Excel、Word、PowerPoint を用いてビジネスに必要なデータ処理スキルを習得する</p> <p>3) データ分析の実践を通じて、データサイエンスの基礎を理解し Excel の応用的なスキルを習得する</p> <p>4) 最新の Web サービスの利用を通じて IT 分野の潮流を知る</p>			
回	内 容	回	内 容
01～04 回	Office スキル確認	088～092 回	データサイエンス入門 1
05～09 回	インターネット通信	093～096 回	データサイエンス入門 2
10～13 回	クラウドを介した情報共有	097～100 回	データサイエンス入門 3
14～18 回	Google アナリティクス 1	101～108 回	データサイエンス入門 4
19～23 回	Google アナリティクス 2	109～113 回	データ構造とコード化
24～28 回	Google アナリティクス 3	114～118 回	データ集計と分析の実践 1
29～33 回	Google アナリティクス 4	119～122 回	データ集計と分析の実践 2
34～43 回	Google アナリティクス 5・認定資格受験	123～127 回	比較分析実践：テーマ決定
44～48 回	個人情報保護	128～132 回	比較分析実践：データ集計
49～53 回	グラフとスマートアート	133～137 回	比較分析実践：報告書作成
54～58 回	郵便物を印刷する	138～142 回	比較分析実践：発表
59～63 回	名刺を作る	143～146 回	競合サービス比較分析
64～72 回	SaaS の活用 Adobe Express	147～151 回	デジタルデータと著作権
73～77 回	訴求力の高い発表資料を作る 1	152～156 回	PC の維持管理
78～82 回	訴求力の高い発表資料を作る 2	157～161 回	アルゴリズム入門
83～86 回	集合知の活用と真偽	162～166 回	マクロと自動化
87 回	期末試験（前期）	167～174 回	AI の現状と活用
		175 回	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。